

## 保護者・指導者の皆さんへ

このアクションプログラム集は、子供たちが、身近な場所で自ら気軽に取り組めるよう、専門家の意見などを聞きながら、構成や内容を検討したものです。

それぞれのプログラムは、子供たちが、環境について興味や関心をもち、環境にやさしい行動の実践につながるよう配慮しています。

保護者・指導者の皆さんには、子供たちが、自主的にプログラムに取り組む中で、それぞれのプログラムの「ねらい」に気付くことができるようなアドバイスをお願いします。

また、子供たちがプログラムに取り組む際、安全に実施できるよう、万全の注意をお願いします。

この「身近な生活環境編」では、「ごみ」、「水」、「空気」をテーマに、調査や観察、実験などを通じて、自分たちの生活が、どのように環境とかかわっているか、また、自分たちが、毎日の生活の中で環境を守るためにどのように行動したらよいかなどについて考えることを、全体を通じてのねらいとしています。

このアクションプログラム集が、たくさんの子供たちに活用され、環境について考えるきっかけとなってくれることを期待しています。

ここでは、それぞれのプログラムごとの「ねらい」と、「安全面や実施上の注意点」をまとめましたので、子供たちへの指導や、プログラム実施に当たっての参考としてください。

### 調べよう！！ 家庭のごみの量 (P5)

#### <ねらい>

家庭から出るごみの量を知り、ごみは、アイデアや工夫しだいで減らしていくことができることに気付かせる。

#### <安全面や実施上の注意点>

- ◆ このプログラムは、少人数（子供だけなど）での取組では効果が現れないことがあるので、家族全員で取り組まれるようご協力をお願いします。
- ◆ ごみの分別方法は、地域によって異なるので、「燃やせるごみ」の区分がない地域にあっては、それぞれの地域における、該当する区分をアドバイスしてください。
- ◆ 「ごみを減らす作戦」は、次のような例が考えられます。

汚れを拭くときは、ティッシュでなく雑巾やふきんを使う。

紙の箱などは、たたんで「資源回収」に出す。

食べ物は、残さず食べる。

買い物の際は、過剰包装の商品を選ばない。

本当に必要なものだけを購入する。

## 追え！ ごみのゆくえ（P7）

### <ねらい>

ごみが、それぞれの種類によって、どこに運ばれ、どのように処理されるのかを調べて、ごみ問題に関心をもたせ、循環・リサイクルというシステムの気付きにつなげる。

### <安全面や実施上の注意点>

- ◆ ごみを集める際は、軍手を着用させるなど、けがをしないよう十分に注意してください。
- ◆ 地域によって、資源回収の方法や、ごみの処理方法が異なるので、実態に応じた適切なアドバイスをお願いします。
- ◆ 選んだごみによっては、原料を調べにくいことがありますので、どうしたら調べやすいか、また、その物がどのような方法で作られるかなどについて、適切なヒントなどを与えてあげてください。

## ごみ減量ビンゴ（P9）

### <ねらい>

子供たちが考えるごみ減量のアイデアを基に、楽しみながら、ごみの減量について学ぶことをねらいとする。

### <安全面や実施上の注意点>

- ◆ 大人（指導者）が「進行役」を担当する方が、全体をスムーズに進めることができます。
- ◆ 子供たちが、自分でごみ減量のアイデアを考えることや、他人のアイデアを知ることが重要です。（ビンゴゲームは、楽しく学ぶための一つ的手段です。ゲーム中心とならないようアドバイスしてください。）
- ◆ ビンゴゲームが成立するためには、選択させるアイデアの数が、ある程度（30～40個）必要なので、参加人数に応じ、子供が考える（発表する）アイデアの数を調整してください。（例：5人で行う場合は1人6～7個、30人で行う場合は1人1～2個など）
- ◆ 同じようなアイデアをひとつにまとめる際は、まとめ方のヒントを与えるなど、適切なアドバイスをしてください。
- ◆ 子供たちがあまり選ばなかったアイデアの中にも、ちょっとした工夫で有効な方法になるアイデアがあるかもしれないので、留意してください。
- ◆ 参加人数が多い時や、選択するアイデアがたくさんある時は、ビンゴカードのマスを増やしても良いでしょう。（例：4マス×4マス＝16マスなど）

## わたしの家の古いものベスト5（P11）

### <ねらい>

家で、長期間使用しているものを調べることで、ものを大切にすることの重要性に気付かせ、自分の生活を見直すきっかけとする。

### <安全面や実施上の注意点>

- ◆ 「古いもの」は、普段の生活で常時使用しているものを対象とし、使わずに押入れや物置などにしまわれているものや、不要なものは、対象外としてください。
- ◆ 使用期間の長さを競うのではなく、「どういうものをどのように使ったら長く使えるか」「ものを購入するときは、どのようなものを選んだら良いか」「使わなくなったものは、どうすべきか」などについて考え、環境にやさしい生活をするきっかけにしてください。